

「江津の地域医療を守る」 意見交換会結果報告書

令和7年7月

江津市議会 地域医療対策特別委員会

委員長	山根 兼三郎
副委員長	植田 圭介
	渡辺 信明
	坂手 洋介
	多田 伸治
	河野 正行

地域医療はみんなの財産

みんなで守り、みんなで活かすために挑戦しよう！

そのために、まずは「対話・交流」の場をつくろう！

令和6年9月26日、地域医療対策特別委員会から議長に対し地域医療に関する近隣の視察報告および提言を行い、これ以降、議会の役割を「地域医療をどのように守り・推進していくかを市全体に呼びかけ、地域医療を守る機運を高め、市全体で地域医療を守る体制を構築すること」と定め、スピード感をもって取り組むことを確認しました。

これまでに委員会を9回、勉強会を2回開催し、委員会を中心に議会全体で取り組みを推進してまいりました。推進にあたり、医療関係者の皆さまをはじめ、住民の皆さま、執行部の皆さまには多大なご協力をいただきましたこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

令和7年1月からは議員全員で市内にある40カ所の市民団体を回り、地域医療を守ることにについてご意見を伺いました。皆さまからいただいたご意見を基に、今後取り組むべき方向性をまとめ、住民の皆さまへ提示していくことになりました。

令和7年5月には、江津市内の全20カ所のコミュニティ交流センターで「市民と議会の語る会（議会報告会）」を開催しました。この報告会では議員から地域医療の現状をお伝えし、さらに一歩前進するために、住民主体の「地域医療を守る会」の設立を提案し、活発な意見交換を行いました。

意見の詳細は、後述の通り多岐にわたっていますが、皆さまからいただいたご意見は、おおむね次の3点に集約されます。

- ・私たち住民は、地域医療の状況をまだよく知らない。
- ・私たち住民は、住民の立場で何ができるかを知らない。
- ・私たち住民は、誰もが地域医療を守りたい、存続してもらいたいと思っている。

この3点の状況を踏まえ、地域医療を守るための具体的な課題解決に向けて、住民の皆さまが主体となり誰もが参加できる「（仮称）江津の地域医療を守る会」の設立を強く望む声が多数寄せられました。今、会の設立を起点に、対話・交流の場をつくっていくことが求められています。

住民・医療関係者・行政が共に地域医療を守るため、いただいたご意見を基に具体的な議論が進められるよう、意見交換会結果概要版に、それぞれの立場で取り組むべき方向性をまとめました。今後は、意見交換結果概要版に基づき、議会として引き続きスピード感をもって呼びかけていきます。個人・団体を問わずいつでもお声かけがあれば議員が直接説明に伺います。地域医療について、皆さまの温かなご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

住民の皆さまとの意見交換会と並行して、医療関係者の皆さまには、議会に対し多くの報告やご意見をいただきました。地域医療の取り組みについて情報が十分に伝わっていなかった点を反省し、今後はより一層の情報発信に努めます。医療の経営面については全国的な課題もある中、江津のまちと共に持続可能な経営体制の構築に向け、改革を進めていくことを確認しました。また、今後、住民の皆さまとの直接的な交流・対話の場にもご協力いただけるよう、議会としてもお願いしています。これに対し、これまでお話しさせていただいた医療関係者の皆さまからは「交流・対話を広げていきたい」と前向きなお返事をいただいています。引き続き、議会としても皆さまのご意見を伺いながら、共に前進できるよう働きかけていきます。

江津市の執行部とは、住民の皆さまからの地域医療に関するご意見・お問い合わせへの対応、医療従事者の確保に向けた取り組み支援、そして不採算地区であっても必要な医療が提供されるよう財政支援を行うなど、地域医療を守るため引き続き取り組むことを確認しました。

江津市議会としても、令和7年 5 月21日に島根県に対し重点要望を行いました。県知事に対しても直接地域医療の現状を伝え、協力をお願いしたところです。今後も議会が担う役割を意識し、地域医療を守るために、住民・医療関係者・行政の3者が連携・協働していけるよう、引き続き呼びかけていきます。

■地域医療に関する背景と、今後の議論に向け見えてきたもの

国の新たな地域医療構想では、人口減少の中 2040 年とその先を見据え、全ての地域・世代の患者が、適切に医療・介護を受けながら生活し、必要に応じて入院し、日常生活に戻ることができ、同時に、医療従事者も持続可能な働き方を確保できる医療提供体制を構築していくとしています。

島根県はこれを受けて令和8年度中に新たな島根県地域医療構想を策定するため作業が進められています。この地域医療構想では、地域完結型の医療・介護提供体制を構築するために、医療関係者、介護関係者、保険者、都道府県、市町村等の必要な関係者の参画が求められます。江津市も調整会議において、在宅医療、介護との連携、かかりつけ医機能の確保など、重要な役割を求められることが想定されます。

地域医療対策特別委員会は、地域医療の課題に対し様々な立場の関係者の皆さまとも意見交換を進めています。途中ではありますが、これまでの意見交換で見えてきたものもあります。江津地域では、まず医療・介護人材不足対策が急務です。人材確保のため奨学金制度見直しや実習改善に加え、医師・看護師・介護士の施設間シェアリング、医療 DX 推進、負担軽減など、限られた資源の中、私たちが具体的に取り組める最善で持続可能な体制構築について、全体での議論・検討が必要だと考えます。市内だけでなく、国や県、近隣の自治体とも連携しながら、地域の実情に合わせて病院・診療所・介護施設において役割分担を明確化し、地域完結型の医療・介護提供体制を構築していく必要があります。

そして、これら地域完結型の医療・介護提供体制の構築を進めるためには、住民との交流・対話により、理解と信頼を得ていくことが不可欠です。交流・対話の場を積極的につくり、どうすれば地域医療を守り・活用していけるか、私たちは共に考え、共に目指す姿を描きながら、新たな挑戦にも取り組み、進んでいくことが大切なことだと考えます。本市の強みである「顔の見える距離感」を活かし、本市ならではの体制構築を目指していきます。

■議会報告会でいただいた意見を踏まえた補足説明

令和7年5月に実施した議会報告会では、住民の皆さまとの意見交換において、地域医療に関する議会からの呼びかけに対して、質問も多くいただきました。それを踏まえ、以下の通り補足説明をします。

「「地域医療を守る」とはどういう意味か？」

江津市議会では地域医療対策特別委員会を設置し、現在は住民の皆さま、医療関係者の皆さま、市の執行部に対して地域医療を守るため呼びかけをしています。ここでいう地域医療を守ることにについては、特定の病院に限定せず、住民がいつでも適切な医療サービスを受けられる体制の実現に向け、以下の目的で定義しています。

目的：「住民がいつでもどこでも安心して医療サービスを受けられるために、医療従事者不足の解消など、持続的な医療提供体制の整備・充実を図る」

「今まで議会は何をしてきたのか？」

率直に申し上げますと、これまでの地域医療の現場が抱える課題に対し、議会として十分な対応ができていなかったと総括しております。その反省の上で、議会としてスピード感をもって行動することを議員全員で確認し、このたびの呼びかけを行っています。今後は、住民・医療関係者・行政それぞれの立場での活動が、市全体として情報共有できるよう取り組みます。対話と交流を意識しながら地域医療を守る機運を高め、市全体で地域医療を守る体制が構築されるよう引き続き呼びかけていきます。

「地域医療の課題を住民に押し付けるものにならないか？」

近隣地域の視察では、行政や病院だけで取り組んでいても地域医療の課題解決には至っておらず、住民の理解と取り組みがあって初めて地域医療を守ることができていました。行政や病院がすべき事については、今後も行政や病院へ求めていきます。しかし、住民の皆さまにしかできないことについては、その主体的な参画が不可欠であると考えております。

「住民にしかできない事と言われても具体的に何をするのかイメージがもてない」

浜田保健所の所長より「その地域で、医療者を”人”として受け入れられるのは、行政でも病院でもなく”住民”にしかできない事です」とご指摘を受けました。近隣地域の例では、新任の医療従事者の歓迎会を主催、パンフレットの発行、研修会の開催、学校へのふるさと教育、サンキューメッセージなどを行い、人と人との交流の中で地域医療を守っていました。

まずは、近隣地域で実践されている住民の皆さまの取り組みに触れてみませんか。江津において何ができるか、共に考えてみませんか。「これをやってみたい」「これならできるかも」など、私たち住民が主体的にみんなで考え、行動するための器として「(仮称)江津の地域医療を守る会」は機能すると思っています。

議会報告会（市民と議会の語る会）開催概要および意見一覧

期間・場所：2025年5月11日～31日 市内全コミュニティ交流センター

開催日	場所
令和7年5月11日	川越地域コミュニティ交流センター
令和7年5月13日	跡市地域コミュニティ交流センター
令和7年5月17日	川戸地域コミュニティ交流センター
	渡津地域コミュニティ交流センター
	二宮地域コミュニティ交流センター
	都治地域コミュニティ交流センター
令和7年5月18日	黒松地域コミュニティ交流センター
	松平地域コミュニティ交流センター
	敬川地域コミュニティ交流センター
	有福温泉地域コミュニティ交流センター
令和7年5月19日	都野津地域コミュニティ交流センター
令和7年5月20日	長谷地域コミュニティ交流センター
令和7年5月21日	嘉久志地域コミュニティ交流センター
	谷住郷地域コミュニティ交流センター
令和7年5月22日	郷田地域コミュニティ交流センター
令和7年5月23日	市山地域コミュニティ交流センター
令和7年5月24日	和木地域コミュニティ交流センター
	波積地域コミュニティ交流センター
	浅利地域コミュニティ交流センター
令和7年5月31日	波子地域コミュニティ交流センター

江津市議会議員全員（16人）で班分けし、各会場で報告・意見交換を実施

意見交換時のテーマ「地域医療を守るために市民としてできることは」

参加者：のべ194人

各会場では4人の議員を主担当にして意見交換を実施。各会場で出された意見を並び替えて、住民・医療・行政・議会の4者に分類（対象が複数に渡る意見は趣旨を踏まえいずれかに分類）。さらに意見内容を文脈も考慮してテーマごとに分類し、意見概要を各テーマ冒頭にまとめました。

※箇条書き部分は意見交換会で出された意見を原則そのまま記載しています。

※意見交換会資料ダウンロード：<https://www.city.gotsu.lg.jp/site/gikai/35979.html>

また、意見交換の内容を踏まえ、今後住民・医療・行政それぞれの立場で取り組む方向性について「意見交換会結果報告書概要版」にまとめました。

主に「住民」に対する意見

1. 医療関係者との対話・連携強化

地域に医師を呼び込むには、研修医の受け入れや医師と住民の交流の場を設け、心が通う関係を築くことが重要です。新任医師の歓迎会や、趣味を通じた交流、地域行事への参加など、継続的な交流の機会を設けることで、医師が地域に定着しやすくなります。市民と医療従事者が対話し、互いの状況を理解し、感謝を伝える場を常設することが求められています。

- ・研修医など地域に医師を回す仕組みを作ってはどうか。
- ・医師と地域住民の交流の場を作る必要がある。
- ・医療機関が住民に対して何をしてほしいかわからないから知りたい。医療関係者と地域住民の対話の場が必要。
- ・魚釣りの話。九州に帰る医者が、温泉津温泉に気に入り、帰らずに済生会で勤務をしたという話も聞いた。→心が通うと医師が来る。
- ・医師の歓迎会をやることは賛成
- ・医療関係者が地域の人との交流する機会があると良い。その点开業医は地域の人との交流が多く親しみやすい。
- ・地域医療を守る会について、医者、看護師、地域の役割、行政の役割など言う機会がない、誰が新任で来たのかも情報ない。そういう組織があれば、新任の歓迎、魚釣り私得意です、そういう情報が入る機会「地域医療を守る会」是非作って頂きたい。
- ・来られた医師を大事にし、少しでも居心地の良いようにしなければ帰ってしまう。
- ・嘉久志ではできなかったが、歓迎会などもやるべき
- ・地元の開業医の所へ正月に葉ボタンを持っていたりして応援した。微々たることでも大事だ。
- ・住民が地域医療の実情を理解し、自ら行動するための情報提供と対話の場が必要
- ・行政と市民団体が協力して地域医療を推進する体制の整備が必要
- ・医療問題を議論するための場を市として設けることが求められる
- ・歓迎会は良いのではないか
- ・相互にざっくばらんに話せる場があると良い
- ・住民では何もできないと思ったが、住民とお医者さんをつなぐ組織が必要
- ・病気の人だけでなく元気な人も含め、住民と病院・医師・看護師との接点をつくる必要性がある
- ・旗振り役が大事で、誰がどのようにするか具体的に
- ・市民の会が出来たら、入院しておられる患者さんの声も聞くことができるようにしたら良いのでは。
- ・江津市で医療をしていきたいと思ってもらえるよう、市民の会は必要。
- ・先生と交流は可能
- ・気持ちよく働ける環境整備
- ・小さいグループに来てもらって、先生の話聞いてみたい
- ・風評問題の対応として、市民の考え方を変える必要があり、そのために先生と話をすることは良い、また、議会だよりを使ってはどうか
- ・市民と先生の設定をつくってはどうか(サロンなどを活用してはどうか)

・今いる医者にどうやって居てもらうか。感謝の気持ちを伝えることは良いこと
・歓迎会もやるべき
・地元の個人病院に後継ぎがない。このことについてどうするか。住民としてできることは何か。
・歓迎会（市内 4 カ所）への参加は可能、送迎車もお願いしたい。
・各地域コミセンでの医師・看護師との懇談会の実施をお願いしたい。
・趣味や子供を入りに広めてはどうか。
・桜江いきいき祭り、江津祭りにブース展示等で参加してもらう。
・医者、看護師さんと話す会への参加。
・コミセンのイベントに来てもらう。
・医療従事者と住民が、病院外で交流する機会がなく、お互いの状況や思いが伝わりにくい。
・交流、協議の常設化、医師、看護師と住民団体、行政が顔を合わせるシンポジウムや協議会を定例化する。
・コミセンでゲーム(e スポーツ)をして、リハビリの先生に来てもらう案はどうか。
2. 住民参加による活動推進 地域医療を維持するためには、住民が主体的に関わる「地域医療を守る会」などの組織設立が不可欠です。これまで意見を出しながらも具体的な活動に進まなかった経験を踏まえ、失敗を恐れずに実行すること、そして継続的な取り組みが重要視されています。住民アンケートや意見交換を通じて、市民が具体的に何ができるのかを明らかにし、病院を応援する機運を醸成していく必要があります。
・仮称「医療を守る会」など名称を広く募り、スピード感を持って進めてほしい。
・地域住民が主体的に関われる住民団体の設立が望まれる
・協力したいが、何が出来るのか、何が 필요한のか、わからない
・市民が一つになっていかなければならないにしても、これまでずっと意見を出しているのだから、どうしたらいいのか具体的に決めて欲しい
・江津の域医療を守る市民の会は、20 年以上前に 市議の方も一緒に考えたことあるが、良い具合に進まなかった。
・地域住民と何かをする、そのことの積み重ねが心の中にすんと落ちて、暖かいもの感じて働くのもやる気になる、この地に住みたくなる、外に出ていた人が「忘れていた」「江津にはこんなにいいところがある」と、心の琴線に触れるような計画、取り組みを積み重ねて前進できる。するならポシャらないようにしてほしい。
・地域医療を守る市民の会がどうかと言っているが、失敗など考えずにやってみるべき
・他市町に「地域医療を守る市民の会」があるなら、江津市でもつくるべき
・応援のために済生会や地域の病院に行っている、他に応援できることを知りたい
・住民アンケートを行い、みんなの声を集めてはどうか
・病院を良くするには声を上げることが大事。
・市民の会の役割は。賛否があるのではないか。
・済生会を盛り上げていきたいが、市民全体で盛り上げる雰囲気にならないと思う。
・「住民の会」の発足をしたらどうか。

3. 情報公開と透明性の確保 済生会の状況が不明瞭なため、市民は何ができるのかわからず、悪い噂が広がる原因となっています。病院の評判を向上させ、医師や看護師が集まる環境を作るには、病院の現状や内部の様子を市民に公開し、信頼を築くことが不可欠です。地域医療に関する正確な情報提供と、具体的な内容が示されることで、市民も安心して地域医療に関心を持てるようになります。 ・済生会の状況がわからないことが、市民として地域医療を守るために何ができるのかわからなくなる原因になる。 ・現状は病院の状況がわからないから、悪い噂が独り歩きし、病院の評判がさがり、医師看護師が集まらなくなる。 ・良い評判をつくるには、病院の状況がわかること。中の人が見えること。 ・地域医療に関する情報が少ないので、話し合いも難しい。 ・より具体的に内容が出てこないといけない ・確かな情報がほしい
4. 住民の意識向上と自助努力 地域医療を支えるためには、住民一人ひとりが「自分の健康は自分で守る」という意識を持つことが重要です。健康寿命の延伸に向けた活動の推進、特定健診の受診、コンビニ受診の抑制など、日頃からの健康管理が求められています。病気の人だけでなく、元気な人も含めて、住民と医療機関が連携し、予防医療への意識を高める機会を増やすことが大切です。 ・健康寿命を延ばす活動を推進する ・先生を大事にして、住民が済生会に診てもらおうという気持ち意識づけが大事だと思う。 ・患者が悪口を言わないようすべきだ。 ・済生会が何をしてくれるかではなく、やれんやれんではなく住民自身が何ができるかを考えるべき。 ・救急はどうしても自分本位になっている ・市民として医療にかからない、健康であることも大事。 ・コンビニ受診はやめるべきだ ・医療にかかる必要性がなければ、地域医療に関心は持たない ・予防の取り組みが重要。←健康への関心はある ・一人一人の健康管理が大事ということを、皆さんで共有する場があると良い ・病院にかからなくてもよくする。健康に気を遣う。 ・自分の健康は自分で守る。 ・島根は長寿県。自分で自分の身を守るしかないから、頑張っている結果。 ・特定検診などを受けて、自分自身が健康でいることも大事。 ・多くの市民がもっと関心を持たないといけないと思った。
5. 住民の地域医療の現状認識 江津市では医師数が伸び悩んでおり、地元出身の医療従事者も戻ってきにくい現状があります。他地域の成功事例を参考に、医師に選ばれる病院・地域を目指す必要があります。夜間・休日の救急体制への不安や、慢性期医療と急性期医療の役割分担など、市民が抱える具体的な懸念を解消するための情報提供と、地域医療の課題に対する正確な現状認識を深めるための勉強会やシンポジウムが求められています。

・医療体制を維持していくためには、医師や医療関係者だけでなく地域住民全体の理解と協力が欠かせない
・地元で病院がなくなると困る、ということはみんなが思っていること。
・江津市の生まれで、医者や看護師になっている人が、帰らない・帰れない。地元へ帰らない。働きがい、魅力などから帰って働こうかなとならない。
・両親・兄弟、地域の人にお世話になり大きくなったのに帰れないのは何なのか。そういう気づきを与える何かがある。何年間か医者・看護師に手紙を出したりアタックしたけど、あまり効果なかった。
・医師、看護師だけでなく、どういう職業であっても江津に帰ってくる確率が少ない。小さい時から身に染みて、体に染み込んで江津に帰って何かしたいと言う意識を持つ子を育てる教育が大切だ。→ふるさと教育の充実
・旧桜江と旧江津、嘉久志とその周辺と困っている問題意識が違う。地域ではある程度自衛している。
・平成24年あたりを境に他の地域の病院の医師数が増えているが江津は増えていない。他の地域が何に取り組んだのかを知らないといけいない。
・医師に選んでもらえる病院、地域にしていけないといけいない。
・手術を伴う疾病は医療センターへ、慢性期の疾病は済生会へと情報を流して欲しい
・夜間、休日どこまで診てもらえるのか不安。何科なら診てもらえるのかよくわからない
・救急は医療センターを望む
・医大からの先生に診てもらっているが、救急でアドバイスが欲しい時に困る
・総合診療医が3人も増えたので、これからは診てもらえるだろう
・現状が分からないので、シンポジウムや勉強会への参加（ただし、参加者が集まるように地域の祭りなどにくっつけて開催、またテーマを絞るなど工夫する必要あり）
・現状、地域医療や病院のことを「知らない」が、検診などで実際に病院へ行ってみることで知ることができる
・どうしたら医師に残ってもらえるか。医師にもメリットがないと無理。そこを考えることが一番なのでは。
・地域医療がなくなると困るのは私たち市民。様々な課題があると思うが。
・地域にある個人病院を大事にしていけないといけいない。

主に「医療」に対する意見

1. 医療連携と患者フローの課題

住民の皆さまは、病院間の連携不足、特に救急搬送時の情報共有や二重搬送に強い不安を感じています。済生会病院と浜田医療センター間のスムーズな連携、そして救急隊を含めた迅速な情報共有が求められています。また、患者さんが病院選びで迷わないよう、具体的な受入体制や診療能力の情報開示が重要です。

・浜田医療センターと済生会江津総合病院がしっかりとコミュニケーションをとってほしい。

・救急車が済生会に行かず、他の病院に搬送するのは、済生会が頼りにならないからではないか。⇒実際には受け入れ先の病院と症状による。

・母が脳梗塞の時に、救急車で済生会に行き検査、浜田医療センターにドクターヘリで行ったが、カテーテルが使用中と、医大に搬送。脳梗塞は時間、済生会で検査して、医療センターで対応できるか判断して医大に直ぐ回すとか対応が遅い。右半身がマヒ、脳にも記憶障害になった。江津市は、ドクターヘリを2回も使わないと治療受けられない実態。症状の情報共有の迅速性が問われている。

・脳梗塞は一時を争う。倒れて時に脳梗塞だと救急車に症状を伝え、直ぐに医療センターに搬送され、翌日には会話ができる状態。この時は済生会でドクターヘリが待っていた。

・救急体制の連携プレーが大切。救急車に乗った時に前はどこ望まれるかと聞いていたが、今は済生会に運ばれ、どうすると判断になっている。

・救急車で済生会という時に、医療センターにと言った時に、救急車が使えない、医療センターにはタクシーでと言われたという話を聞いた。圏域と言う事で対応はどうか。

・個人病院と済生会の連携ができているのか

・救急で制度、体制を見直す必要があるのでは。済生会を経由しない方法

・医療センターに電話して行っただが、手術中なので待ってくれと、その後診られないので江津で診てもらってと言われた。

・江津で診てもらうのが第1希望。済生会でまず診てもらう、次に医療センターや出雲というのはあっても、まずは済生会というのが一番だと思う。

・救急で入っても浜田へ転送される、自家用車で行ってくれなど論外。欠陥だらけではないか。

・医療センターと済生会が連携する上での課題はなにか。

・浜田との連携を強化して、簡単（医療センター）に行ける体制にして欲しい

・入院受け入れて、看護師いないから受け入れられないと言う事があつたが、どうなっているのか。

・手術後に済生会での対応できないので、医大に通院しているが、JRを利用。交通費が大変。

・医療機関と情報共有が不十分であるとの指摘があり、特に医療関係者間の連携強化が求められている

・ドクターカーを配備してほしい

・救急で運ばれても、症状に対して、処置する科が無ければ対応できないのではないかと。

・近隣各地域の中核病院5つの病院で連携したらよい。

・救急の場合は自家用車で医療センターに行った方がよい。

・かかりつけの病院があるのに、救急車を呼ぶと他の病院へ回される、最初から選ぶことできないのか。
・救急搬送された時に、移動される割合はどのくらいか
・済生会に救急車で、医師がいなかったから翌日医療センターに転送。初めから医療センターにならないのか。昼間は良いが、夜間だと心配だ。
・救急車で「済生会ですか？医療センターですか？」と聞かれ、一旦済生会にと言ったが、病気に対する専門医がいなかった、翌日また救急車で医療センター行った。
・脳梗塞の方が、ドクターヘリが青陵中学校の校庭に待機し、救急車が来てすぐ搬送、2週間で退院された。119番した時点の判断が大切。
・済生会に救急で行ったけど入院してもらえなかった
・救急受け入れや病床機能再編がほとんど進んでいない。
・済生会江津総合病院で医師不在や診療制限で、救急車が浜田医療センターへの転送が増加している。
・ろれつが回っていない患者さんが済生会江津総合病院に行って異常なしで帰され、のちに浜田医療センターで脳梗塞と診断された。
・脳梗塞など緊急時に「まず受入可能可否の確認から転送」の二重搬送が起こり、30分以上のロスするケースがある。
・地域包括ケアの強化と医療、介護をセットで考え、訪問診療やコミュニティナースの活用を拡充してほしい。
2. 人材確保と働きがいのある環境づくり 医師や看護師の確保と定着は喫緊の課題です。医師減少の原因（研修医制度、地域性、待遇など）の分析と対策が求められています。給与や福利厚生だけでなく、職場環境の改善、キャリア形成支援、そして家族を含めた生活環境の充実が、魅力的な職場づくりの鍵となります。潜在看護師の復帰支援も重要です。
・待遇面と勤務条件により、新卒の医療従事者が県外の病院を就職先として選んでいる。採用等でも済生会の情報発信が必要。
・済生会だけ医師が減っているのはなぜか。⇒近隣病院と比べても済生会だけ地元出身者が少ない。
・看護師が退職するのは、待遇が悪いのではない、医療崩壊ではないか
・ベッドが開けないのは看護師数が足りないから、医者も大事だが看護師も大事。
・離職者が多いのは働き続けられない問題の解決をする、働き続けてもらう改善が必要。病床数を増やす取り組みを…減らす方向になっている事が収入の問題にある。
・看護師も大切⇒看護師が働き続けられる環境づくりを
・医師が10人になったのは何故かその原因を探してほしい。
・看護師不足も考えないといけない。
・医師の数も大事だが、信頼できる医師がいることも大事。済生会の医師数も大事だが、開業医の確保も大事。
・看護師不足も問題。労働条件など処遇の問題が有るのではない。
・看護師確保で、結婚・出産で離れた人の復帰を促す取り組みが大切。潜在的な看護師はおられる。

・医師や看護師の地域定着が困難である背景に、魅力的な職場環境や住環境の不足が挙げられた
・医師への金銭インセンティブだけでなく、家族を含めた生活環境の充実が必要
・済生会だけ医師が少ないのはなぜか
・西ノ島町は離島医療で有名なため先生が来ているので、江津医療の特徴を特化してはどうか
・先生が地域を選択する基準を知りたい
・母が済生会に入院したが、看護師さんは、明るく、優しく、話しやすく、丁寧ですごくよかったと思う。
・島根県全体としては医師が増加しているのは知らなかった
・看護師の増減の状況も知りたい
・済生会だけでなく開業医の後継者確保にも取り組んでほしい
・指導医がいないので研修医が来ないなら、地元ではどうしようもないのでは
・近隣市町より医師が少ない要因は、処遇の問題か、何か問題があるが要因は何か。
・医師不足や医師の偏在の原因（制度的な問題）はなにか、根本を解き明かさないと解決に向かわないのではないか。
・医師数が倍増しているのに、済生会だけなぜ減っているのか。
・看護師の定着が全体的に悪い。定着率を上げる工夫が必要。
・どうして医師の数が少ないのか。⇒研修医制度があり、済生会には研修医がいないため。⇒旭の診療所には、研修医が来て診察している。⇒医療圏域のことや研修医のことは住民には何もできない。
・看護師の待遇を知りたい
・江津に先生が集まらない理由など根本的な原因を考えるべき
・済生会だけ医師や看護師が減少している理由を知りたい
・済生会の看護師が辞めるのは待遇面か
・退職される方が多いと聞く、何が原因か。給与・福利厚生・職場環境か心配。済生会で勤めたいという環境を整えてほしい。
・島大医学部の「地域医療考える会」に参加した。地域医療に興味ないという理由が、いろいろな疾患が診られない、医師になるいろいろな勉強したが、済生会は限られ、医療センターは研修体制が整っている。
・看護学生で、済生会は入院を全員みきれず、医療センターで済生会待ちが10人ぐらい、医療センターにとっても負担、改善を。
・高度医療が無いので若い看護師にとって魅力がない。
・医療センターや大田から先生が来られるが、時間を割り振って済生会に来てもらう体制を作ってはどうか。
・看護師不足の中で負担が増えて、辞められるとかもあり悪循環になり心配
・お医者さんも少なく、一人の負担が大きくなり、こうした事も医師不足になっているのか
・看護師不足の対策が必要です。
・浜田市は医師が増えて江津市は減少、分析が必要ではないか。

3. 医療提供体制と診療機能の再構築

住民の皆さまは、産婦人科、小児科、外科など主要な診療科の不足に強い懸念を抱いています。全ての診療科を揃えるのが難しい現状を踏まえ、地域全体での役割分担（急性期・慢性期医療）を明確にし、特定の診療科の強化や総合診療医の確保の検討など意見がありました。病床数の維持とそれに伴う看護師の配置も重要な課題です。

・救急車が済生会に行かず、他の病院に搬送するのは、済生会が頼りにならないからではないか。⇒実際には受け入れ先の病院と症状による。

・済生会が江津市医療の最後の砦なので頑張ってもらいたい

・地域医療とは何か

・現在、特に病院について不自由していない（開業医に紹介状を出してもらって出雲などに通院しているなど）

・かかりつけ医が少なくなっていることも問題である

・高齢者にとって病院が近くにあることが非常に重要であり、徒歩圏内に医療施設があることで安心感が増す

・いざと言う時診てもらえるかどうか不安がある

・個人病院の体制強化が重要ではないか

・かかりつけ病院、薬剤師の充実を図ることが大事と思う

・産婦人科、小児科、外科といった基本的な診療科目が不足していることが懸念される

・診療科目の充実は、今後の地域の発展や住民の生活の安心につながる

・往診も含めて訪問診療はできないか。

・診療科が無くて歯抜け状態が心細く頼りない、高齢者は浜田まで行くのは大変。

・小児科ないことが問題。

・赤字は、病床数の減少が問題。どこまで改善するか？

・かつては良い院長先生や産婦人科・小児科・外科にも良い先生がいて浜田医療センターより患者数が多かった。

・済生会は総合病院であることが市民にとって大事なことで、これが崩れている。例えば産婦人科や小児科がないと若い人が帰ることができない。

・済生会は総合病院である体制を維持すべき。そのために皆で何とかしようと意思統一を行い、具体的な行動することが必要

・済生会やその周りの病院で若い医師の研修・研鑽ができる体制ができれば若い人も来るのではない。

・済生会の赤字について、特定の科に特化しなければ黒字にならないのではない。

・済生会の医療レベルを信じてよいのだろうか、不安。⇒済生会のことを良く知らないことからくる。

・科が急になかったら困る。

・医者の質や機材の質の充実をしてほしい

・専門医、良い医者に診てもらいたい

・オンライン診療も言われたが、コミセン等に設けるなど有れば良い

・整形外科の先生の評判は良いと聞く。他市からも患者が多く混んでいると聞く。

・外科の先生は呼べないのか
・高齢で済生会に行くことも大変なので、近くの開業医で満足している。先生を信じることも大切。
・済生会がかかりつけ医にならないか。
・小児科、産婦人科、整形外科など重要な診療科の不備や医師不足に対する懸念が大きい
・ドクターヘリでは足りない部分もある。救急への不安がある
・救急で見てもらった先生の患者への対応が残念だった。もう少し優しくできないか。
・波子地域には病院の先生がいない。往診や訪問診療があると良い。
・ベッド数をこれ以上減らさないように。
・人口が減少しているのだから、医師数は足りているのではないか。⇒診療科が専門化しているのでは足りていない。今年から、総合診療科ができたので広く診察ができる。
・地域医療というが、済生会の話だけをするのか、開業医も含めて話をするのか。⇒開業医の跡継ぎに帰ってもらうにも、済生会を中核として成り立つ必要がある。⇒帰ってくる医師に安心感を持ってもらうためにも済生会が必要。
・専門医で目玉となるものを創って魅力を向上しては
・医療は大事で、高齢化のため介護がくっついているので、介護も含めて欲しい
・骨折後に急速に認知が進み、施設を探したが要支援2のため困難で、病院と介護施設で融通や共有できることがあれば良い
・自分自身は病院を利用していないのでよくわからないが、10 年位前に子供が交通事故にあって済生会に受け入れてもらえなかった。何のためにあるのかと思った。しかたなく邑智病院へ連れていったが、そのことがショックだった。
・非常勤医は、担当医が変わるたびに説明する。治療に専念できないので、違う病院を探す。
・地域の個人病院との連携を取ってほしい。個人病院の先生から、済生会で診てもらう時に往復タクシー使えば1万円かかり負担だ。また先生の高齢化が心配。
・地元で医院が週1回。川戸に歩いて行けるので助かる。
・済生会にも優しく良い先生はおられる。
・総合診療医が必要。
・非常勤の先生が変わられると都度説明をする。今後もそれが続くのかな
・小児科、外科、脳外科、耳鼻咽喉など専門医の強化をお願いしたい。
・以前は医療体制（済生会）が充実していたが現在は充実していない。
・邑南町や広島病院が良いという話を聞く。
・診察しやすい病院は、医師が当たり前に在籍している、専門医もいる、済生会江津総合病院はそうになっていない。
・川越診療所を上手に利用できないか。
・江津市の将来の為に、産婦人科と小児科は絶対に必要です。
・済生会江津総合病院での完結を望みます。
・地元の先生は高齢ではあるが、いなくなったら大変。邑智病院も近いが冬場が大変。やはり済生会を何とかしてほしい。
4. 地域とのコミュニケーションと情報発信

病院と地域住民の間の情報格差が、不安や不信感につながっています。病院の診療科や医師の情報、採用情報、病院の取り組みなどを、ウェブサイトだけでなく広報誌や SNS、地域での医療相談会などを通じて積極的に発信することが求められています。住民の皆さんが安心して医療を受けられるよう、透明性の高い情報共有が不可欠です。

・済生会の情報、例えば何科の先生がいるかなど、がわからない。

・資料の中で、8 分の3に、「済生会には行きにくい雰囲気にある」というのがある。市民が行きにくいのか、医師不足という中で、済生会に問題が有るのではないかと思うが、医師も行き難い（済生会に勤務したくないという事）環境が有るのか、患者として行き難いのか、医師にも、済生会には!というのがあるのか、なぜ行きにくい雰囲気が有ると言う事について分からないが、こういうことを思っている市民がいるという事が問題。

・済生会自体が、どう変わっていくのか分からないので、助けてほしいことを知らせて欲しい

・先生にコミュニティに出てきてもらえると良い

・過去の出来事に起因する医療機関への風評被害を防ぐために、正確で迅速な情報発信が重要である

・地域住民への情報提供の改善が求められる

・各地域コミセンで医療相談会等の実施が必要ではないか

・情報発信が少ない。済生会にどんな先生がいるかなどの情報をしることができるようにならないといけない。HP に掲載することは大事だが、それ以外の方法も考えていく必要がある。市民も何科の先生がいるのかを知らうしないといけない。

・済生会合津総合病院の HP の更新を随時行って欲しい

・24時間ダイヤルの活用で、病気や薬の不安が解消されることもある

・先生の話（専門的な話や世間話など）が聞ける場があると良い

・病気になる前の指導が大事なので、敬老会で血圧を測るなど

・済生会のPR誌が欲しい、行政もふくめて情報発信へも注力して、最新の情報が欲しい

・市役所などに、地域の先生に来てもらってテーマを決めて話をして欲しい

・市内の個人病院の情報が欲しい

・済生会の医療がダメというレッテルがあり、初めから選択肢から外れる

・済生会のボランティアはOB・OGのみで市民は断っているようだが、いきさつを調べて市民にも参加してもらっては

・救急体制などを知ってもらい、悪いイメージを払しょくする必要がある

・済生会祭りをもっと活用してはどうか

・病院広報をもっと充実して欲しい（HPは充実している）

・済生会江津総合病院の医療データ（まめネット、電子カルテ）の活用で、病院をもっと使いやすいものにしてほしい。

・もっと済生会江津総合病院の情報公開を進めてほしい。

・好事例を発信（SNS）することが大事ではないか。

・大学病院から医師が来てくれることは、良い事と思う。

・済生会の医師数はわかるが、開業医は何件あるのか。⇒歯科等含めて 23 件ある。

・イメージが良くない（昔のイメージかもしれないが）

・済生会の情報、例えば何科の先生がいて、近隣病院を含めどこにどんな医師がいるのかがわからない。
・済生会江津総合病院や行政が努力していることが(SNS)等で発信されているが知られていない。
・「済生会病院だより」、(虹)を各コミセンに置いてほしい。
5. 患者満足度向上とアクセス改善 住民の皆さまの不満として、保険証確認の手間、待ち時間の長さ、会計時の配慮不足などが挙げられています。これらの受診プロセスの改善は、患者さんの利便性と満足度を高めるために重要です。また、交通手段の確保や往診・訪問診療の拡充、オンライン診療の活用など、地理的な制約がある住民へのアクセス改善も求められています。かかりつけ医の充実も、地域医療の基盤となります。
・通院、手術、入院等をした患者さんの思いを聞き取って、知ってもらう対策をしてほしい。
・病院選択の際に、済生会が選択肢に入っていない
・ワンストップ(総合受付)ダイヤルの活用を広げる
・若い人と高齢者のそれぞれ求める医療が違う。若い人は職場等で健康診断を受けているから大丈夫なのでは。
・診療費が20円多く取っていたから、取りに来てくれと言われたが、バス代を使ってまでいけないので、取りに行かなかった。
・会計時に名前呼ばれるが、耳も悪く聞こえない時ある。番号表示に代えられないか。
・開業医に通うが、薬だけもらうのでも1時間以上待たされる。何とかならないか。
・済生会に行ったときに、あまり患者さんがいないように感じた。
・若い先生が、親切に診てくれた。翌日電話してきて、「その後どうですか」と聞いて来られた。
・予約をしても、済生会の待ち時間が長い
・里帰り出産ができない。子供だけで産むのは親も不安。
・済生会はスムーズな対応をしておらず選択肢に上がらない。医大は予約していけるし、安心できる。近いところに安心できる病院があるのがよいと思う。
・学生の立場だと、済生会とか大きい病院より、簡単に行きやすい、かかりつけの個人病院に関心があり使う機会が多く、そっちを調べるが、数としては少ないと感じる。
・救急で見てもらった先生の患者への対応が残念だった。もう少し優しくできないか。
・病院側にも変わってほしい。病院の対応に不満がある。
・信用される病院になってほしい。
・地域の人が行きやすい済生会になってほしい。
・済生会に入院したとき、今後どうするのかの説明がなかった。
・救急で運ばれて、4時間大部屋に放置された。
・市民の声を取り入れていない
・予約を取るために診察を受ける必要がある(電話予約ができない)
・インターネットなどで予約確認できれば良い
・良い噂を聞かない。救急車で搬送された90代、入院したいと言ったが、大丈夫と帰され、翌日に川本の病院に行かれた。

・70代、「ろれつ」回らなくなり検査受けたが、大丈夫と帰され、医療センターに行き、即入院。診立ての質を上げて、対応できない時は紹介状を書くなどしてほしい。帰った後に調子悪くなるようだと信頼がなくなる。
・バスの時間や通える曜日に合わせて融通して予約を入れてくれる。急な時が問題。
・バスの時間に合わせて予約を融通してもらえ。事務的な話ばかりでなく、お互いに歩み寄りながらやって行けば良い関係になる。
・済生会江津総合病院の初診受付方法が年配者には難しい何とかしてほしい。
・住民は「どこに行けば診てもらえるのか」「病院は何に困っているのか」が見えず不安が拡大している。
6. 病院経営と持続可能性 済生会病院の赤字問題やベッド稼働率の低下は、今後の地域医療の持続可能性に直結する課題です。住民からは経営体制の見直しや特定の科への特化といった提案も出ています。病院が住民に支援してほしい内容を明確に伝えることで、地域との連携を深め、共に解決策を探っていくことが期待されます。
・医療のことであまり困っていると思わない。かかりつけ医がいるので問題はない。何かあったらかかりつけ医に頼る。
・済生会の赤字について、特定の科に特化しなければ黒字にならないのではないかと。
・済生会が維持できるか心配。赤字が多かったが。
・経営体制に問題があるのではないかと
・人気のある先生が独立してしまう
・浜田医療センター（元国立病院）や大田市立病院（市立病院）などとは、異なるため医師数だけで比べるべきではない
・済生会がどうしようもなくなってからでは遅い
・新しい支部長さんに期待する。総合医も来ている、皮膚科に若い医者も来ている。
・Uターンで帰って来た時、済生会の評判が悪く、浜田医セを紹介された。
・済生会の組織運営がだめだと思う。
・島根県西部に異動辞令が出ると、やめる人が多いと聞く。周辺県境や文化、高品質のものをそろえる。
・（近隣は）医者が減っていないことにびっくりした。済生会を充実してほしい。

主に「行政」に対する意見

1. 医療従事者確保の取り組み

医療従事者の確保には、資金援助に加え、開業医・かかりつけ医の体制支援、オンライン診療環境の整備、勤務・住環境や子どもの教育環境の改善が不可欠。医大や島根県との連携強化、学生に体験してもらうなど地元医師育成支援、スキルアップのための研修支援、そして新規医療従事者の広報と定着支援といった意見がありました。

・地域医療では、かかりつけ医師がいなくなった場合の支えをどうするのか考えてほしい。

・開業医が減っている。地域医療を守るためには開業医を確保していくことも必要ではないか。

・地域出身の医師が地元に戻ってくるためには、資金援助だけでなく勤務条件や住環境などの魅力向上が必要

・子どもの教育環境が整うことも、医師を誘致するうえで、非常に効果的である

・済生会に総合医が3人来たことはすごい成果だ。市長にはもうひと踏ん張り頑張してほしい。

・済生会が医師にとって魅力がないから敬遠されていると思う。島根県や江津市の医療支援部門が魅力を高める活動も専門的な行動が必要であり、死に物狂いで医師の確保に動いてほしい。

・スタッフが不足しているのなら、江津に帰ってくるようなシステム、例えば学生に事前に体験会に参加してもらうことや奨学金など考えてはどうか。

・江津は十分な教育環境が無いので済生会に行きたくないという事も聞く(家族で子育て世代)

・医師が来ないのはどこも同じ。医大からの派遣も指示でなく自由になり、スキルを高めるには都心部に集中する。医師確保に医大と行政の連携をしっかりしてほしい。更に、知事や市長が動くことだ。

・若い医者呼び込むため、子供の教育環境を良くし、子育てしやすい環境を。

・地元出身医師の育成や地域医療に定着する仕組みづくりが急務

・必要な診療科の医師が確保できないなら、江津市がお金を出してでも育てる制度をつくるべきです

・智翠館や浜田高校の理数科を充実させ、地元出身の医師を育ててはどうか

・若い人は、子育てを考えると家も建てない。(定住しない)

・若い医師が帰ってきやすい環境づくりが大切

・どの地域でも医療にかかることができる体制づくり。オンライン診療など。

・市の補助を使って医療系に進む制度があると思うが、実績等を知りたい。

・新しい医師が来てくれた時に紹介してほしい。(ケーブルテレビ、イベントでの紹介、かわらばん、市議会だより)

・地域枠で医大に進学された方のうち、何人地元に戻っているのか知りたい。

・まずは、PR、次に交流、最後に定着ではないか。

・空き医師住宅や地域資源を活かして、医師や家族が暮らしやすい環境づくりを住民も後押しをする。

・江津市の未来について、子どもの頃から地元に住めるような教育をお願いしたい。

・江津で住み続けられる取り組みが必要。
2. 財政支援 済生会江津総合病院への赤字経営に対しての不安と、財政支援による安定した医療サービスの必要性について意見がありました。補助金が足りているのかなど財政支援のあり方に関心があり、単なる赤字補填でなく前向きな取り組みへの支援についての意見もありました。開業医に対しても将来への懸念と財政支援の必要性も提起されています。
・済生会への市からの補助は足りているのが心配。
・赤字が大きく出ている。人件費が問題で地域住民が人件費を補うこと考えるのか。
・赤字補填が問題でなく、ちゃんと医療が受けられることが大事。
・市民病院の感覚有るので行政が補填する事は不自然なことではない。
・市から支援するのなら、単なる赤字補填ではなく前向きな取り組み、何かに特化した取り組みに支援をすべき。
・地元の病院の将来心配（高齢化・後継者など）何とかならないか、財政的な支援も必要ではないか。
3. 医療への交通・アクセス 交通手段の確保に強い不安を抱えています。特に高齢者にとって、タクシー代の負担や公共交通の不便さを訴える声がありました。三江線廃止後の影響も大きく、スクールバスの活用や買い物支援との連携など、多様な解決策が求められています。
・山脇に行くのに車ない人は、江津駅で降りて乗り換える。買い物ばかりでなく、通院問題。タクシー利用もあるが、お金がかかる。
・高齢者は予約時間に間に合わせるためにタクシーを利用している、年金生活者には負担が大きい
・高齢化が進む中で、病院へのアクセスが重要。
・通院手段の確保が大変。
・江津駅の2番ホームから跨線橋を渡らないと駅の入口に行けないことも済生会を利用しない理由となっているといった問題もある。
・スクールバスなどを利用し巡回バスを桜江に回し済生会へ連れていくことも考えてみてはどうか。
・高齢化が進む中、医療機関へのアクセスが日常生活の重要な判断要素となっている
・自動車や自転車が利用できなくなる将来を見据え、医療機関に近い地域への転居を実際に実行する住民もいる
・医療にアクセスする上で、移動手段の確保が必要
・病院に行くための手段がない。地域交通を充実して、病院の帰りに買い物もできるようになればいい。
・病院に通うのに交通手段の確保が心配。
・公共交通の問題もあり、通院が困難。
・済生会に行くことが大変
・マイカーを持たなくなるので、交通手段をどうにかしてほしい。
・三江線がなくなって済生会に行くことがなくなった。通院を買い物支援とタイアップできないか

・通院に関わる交通について不便だと感じる。
・済生会への交通手段。車ない人はタクシーか知人に頼む。近所の方に再々は頼めない。70代、80代は結束力があるが、その下の年代は言えるかなという面ある。
・民生委員、1人の人連れて行くと、他の人も同じ事例は連れて行く事になり、簡単に手を差し伸べられない。本当に救急で困っている時だけ車（自分の）を出す。それ以外は個人的に出すことしない。万が一事故した時に保証できない。
・一週間に1回なら予約入れてバスで行ける。そうでなければタクシーか知人に。
・済生会に交通の負担。桜江から往復すると1万円ぐらいタクシー。負担が少なくなるようになれば良いな
・特に徒歩圏内に病院や生活施設がある地域は、安心して老後を送れる場所として認識されている
・車がないから、自分で健康を維持していかなければならない。病院はちゃんとしてほしい。
4. 広域連携 江津市だけでなく浜田・大田・邑智を含む広域での医療連携強化を求めています。救急搬送時の連携や、地域ごとの医師数偏りを考慮した圏域全体での医療体制構築、そして医療と介護・公共交通との連携が重要だと訴えられています。
・江津、浜田、大田、邑智等のネットワークでつないで（救急車の中で）対応してほしい。
・公共交通と地域医療の連携、医療と介護の連携をお願いしたい。
・江津に医者が少ないだけでなく、浜田できちんと病院あれば移動の問題で、そこを補填する事を考えてほしい。
・県は、浜田県圏域の人口比に対して医者数の想定があり、医療センターは多く、江津は少ないが全体的にバランスが取れ、江津の人は浜田医療センターに行けば良く、浜田を充実させ江津は消えても良いとの考えか。
・圏域で協力を進めるべき。浜田医療センターに救急で行ったときに、江津の人がなぜ浜田に来たのかと言われたことがある。
・医療連携推進法人江津メディカルネットワークの役割を強化し、情報共有や連携の充実を図る必要がある
・心不全地域連携パスなど、地域全体で患者をサポートする体制づくりの理解促進が必要
・地域医療のエリアを広く考えるべき（浜田市、川本町、邑南町など）
・いざというときに、頼れる病院にするため、広域で連携してほしい。
5. 予防・健康増進 予防医療・健康増進を強く求めています。医療費削減よりも、75歳以上脳ドック助成復活、AED マップ整備、集団検診の充実、疾病学習会の実施、検診受診率向上のための送迎・グループ受診など、多様な予防策と支援制度の拡充が期待されています
・医療費を削減しないで、予防医療の重視が必要
・予防医学の推進も大切ではないか
・自分で出来る事を探して講習を受けた。浜田市ではAED 設置マップが整備されている。江津市でも整備して欲しい
・熱中症対策、AED 救急法などを婦人会の講習で受けた
・集団検診に血液検査が入ると良い、そういったことを話し合えるような場があると良い

・後期高齢者の脳ドック助成がなくなった。75歳以上の人こそ守ってほしい。
・100 歳体操などの、健康診断データをもっと有効活用するべきではないか。
・減塩教室のデータを活用して、心不全予防につなげてほしい。
・人間ドックの活用を広げる為に、支援制度創設し利用率のアップをしてほしい。
・予防も大事だし、病院へのアクセスも大事
・75 歳以上の人間ドック復活してほしい。
・病気などの疾病学習会の実施をお願いしたい。
・検診受診向上の取り組み強化（地区単位での送迎やグループ受診）などの仕組みづくり。
6. 情報公開、課題の背景分析 近隣地域は医師不足ではないことに驚いた、という意見がありました。医療に関する制度の説明や地域偏在の原因分析について情報公開が求められています。広報誌「かわらばん」での医療情報提供を要望。また、救急時の情報共有促進や、医療 DX の推進も期待されます。医療問題を教育・福祉・地域活性化と連携し、包括的に取り組むことや、人口減少対策と若者の定着を図る意見もありました。
・医師数は、そもそもどうして決まるのか、国の決定できるのか。教えてほしい。
・浜田地域では医師数が増えており、江津地域は減少している原因、理由を教えてほしい。
・情報提供で、HP や SNS の利用は高齢者には非常に困難
・かわらばんに、医療情報の専用ページをつくってほしい
・救急車の利用では、患者の既往症などの個人情報の収集が重要であることが利用者にあまり知られていない。このような点の情報提供をきちんとすれば救急対応ももっと効率的になるのでは
・ダメだった時の対応も検討すべき（医療のDX化など）
・医師不足という認識だったが、近隣を含め県西部は医師不足ではないということに驚いた。
・情報公開と相談窓口：病院の課題や市の支援策を分かりやすく示し、苦情や要望を受け止める窓口を一本化が必要。
・生活や福祉などとも関連付けて考えて欲しい
・医療問題だけでなく、教育や福祉、地域づくりなど他の課題と連動して包括的に取り組む必要がある
・総合的な地域の活性化を目指すべき
・人口減少の根本的な原因を考えないと改善に向かわないのではないかと。
・日本は皆保険なので、どこでも、地方でも医療を受ける権利がある。
・医師偏在が課題であるので、そこをどうにかしていくべき。
・人口減少が地域医療に与える影響が大きいので、若者が町に増えると良い。
・なぜ江津市に医師が来ないのか疑問。江津に来ると生活がしづらい、医療機器が不十分で技術が上がらない、本当にそうなのか。
・整肢学園のことが分からない。

主に「議会」に対する意見

1. 市民参加機運醸成と市民の会設立について

地域医療への関心を高め、行政と医療と住民が協働する仕組みが重要との意見がありました。ただし、住民への過度な負担や特定の層への偏りを懸念する声、市民の会で何をするのか具体的なイメージが持てない事や、その効果に対して不明であるとの声もあります。過去の活動継続の難しさへの疑問も呈されており、医師が増えることだけが解決策ではないとの指摘もあります。

・まずは、関心を持ってもらうことが大事ではないか。

・医療に限らず全てにおいて、行政だけでは難しくなっている、だからと言ってボランティアなどを市民に頼ると負担が一定の方に偏るのではないか。

・このような意見交換の場が必要なので続けてほしい。

・市民が地域医療を守るためにかかわっていくことは分かったが、何をしたら良いかがわからない。

・市議会報告会などに医師・看護師の参加を要請してはどうか。

・会をつくること自体は良いが、本当に済生会が復活できるのか。

・江津市の地域医療を守る市民の会は医師がいなのに意味があるのか。

・他の地域では会をすることはできるが、江津では難しいのではないか。

・過去に小児科医がいなくなるときに「会」を立ち上げたことがあるが続けられなかった理由は何か。

・医者が増えれば必ず活性化になるイメージは持てない。地域が済生会に通うのが良いのかな、そういうことではないところに問題がある気がする。

・具体的なイメージがあった方が良いので、周辺自治体の例がもっと欲しい。

・江津市でできないのはなぜか？

2. 議会の取り組み

詳細なデータ提示など、議会の地域医療対策への動き出しを評価する声がありました。一方で、多くの意見を一度に提示するのではなく、医師不足など特定のテーマに絞り、具体的な解決策を議論すべきとの提案があります。議員に対し、過去の経緯の把握、危機感の共有、医師との連携、そして済生会病院に求める機能の明確化と具体的な提示を求める意見がありました。

・詳しいデータはありがたい。

・過去地域医療対策特別委員会があっても動いていなかった。ようやく動いたなといった印象。

・8 ページにわたる意見を済生会や行政にぶつけても解決は難しいのではないか。例えば医師不足などテーマを特化した3 つくらいに絞り、何がしたいのか論点を整理したほうが良い。

・失敗しても良いから何か手を打つことを議員で考えられないか。

・市議の皆さんは済生会にかかっていますか？

・これまでの歴史も知っておいた方が良い。

・議会は危機感をもっていなかったのか。

・議員は医師の歓迎会に出ているのか。市民もだが、まず議員からすればよい。

・人口減少している中で、すべての科がそろっている病院を求めるのは難しい。済生会にどこまでの機能を求めるのかを議会として聞いてもよいのでは。
・済生会にどういう風になってほしいか具体的に示してほしい。
3. 医療と政策 済生会江津総合病院の評判に対しては賛否両論意見がありました。研修医制度変更後の医師減少も指摘されています。地域医療を考える際は、江津市内だけでなく浜田医療圏全体での役割分担（急性期・慢性期）を明確にし、東部・桜江地区の医師不足対策が急務など、市内でも地域によって対応が必要との意見があります。また、日本の医療政策や制度改善、政治への不満、病院と行政による市民ニーズとのマッチング、他地域の成功事例研究、内部情報共有による住民負担軽減の必要性が挙げられています。
・済生会に対して良くない評判が多いと感じる。
・実際には肯定的な意見もある。
・研修医制度の変更により平成16年以降に医師が減った。
・地域医療の地域とは浜田圏域で考えるのか。急性期は医療センター、慢性期は済生会が県の医療政策なのか。救急患者は浜田医療センターでの受け入れ、済生会は診られない。地域医療とは江津の医療を守る、東部の医療を守る、東部は先生1人、桜江も先生1人、10年後はどうなるか？東部と桜江をどうするのか…分けて考えて、どうあるべきか考える必要がある。
・長寿命なのに医療は遅れている？
・都会の専門病院、有名病院でも統合している。日本の政治がだめ。医療費を抑えて軍事費を上げるようなことでは先が見えている。政治崩壊している。
・病院と行政が市民のニーズを考えて、マッチングすることが必要と思う。
・内部情報の共有で住民負担の軽減をしてほしい。
・益田の日赤や大田市民病院の医師数が増えている理由が知りたい。
・資料でのアンケートは何%の人の意見なのだろうか。
・毎月の保険証の確認は面倒だが、改善できないか。（参加者から、マイナンバー保険証は、毎回提示し確認されるそれも面倒、パスワード忘れたら困るのでコピーして持っている）。